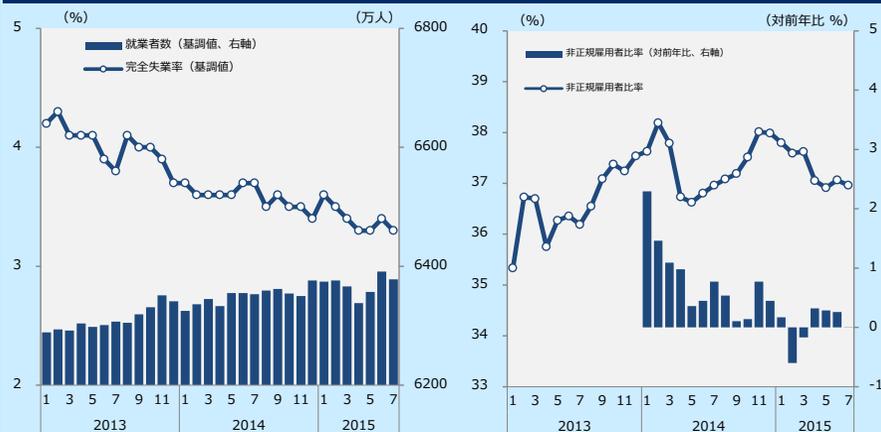


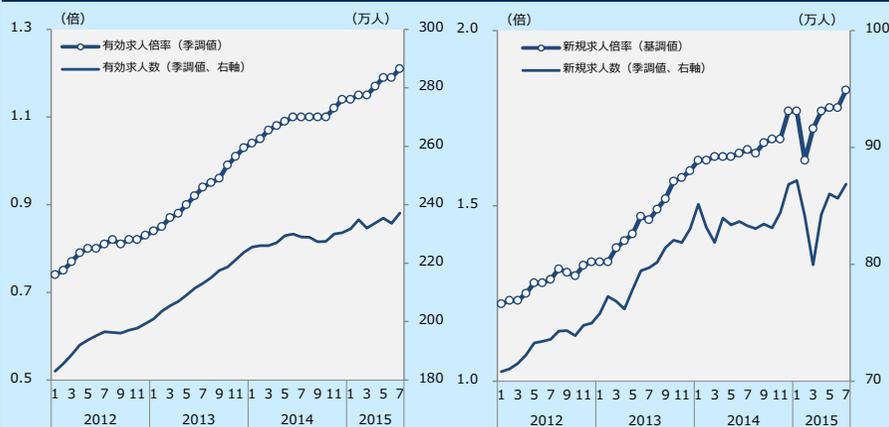
日本：労働力調査・一般職業紹介状況（2015年7月） *MRI Daily Economic Points* August 28, 2015

図表 失業率と就業者数／非正規雇用者比率



資料：総務省「労働力調査」

図表 有効求人倍率と有効求人数／新規求人倍率と新規求人数



資料：厚生労働省「職業安定業務統計」

評価ポイント

労働力調査(15年7月)の結果

- 15年7月の完全失業率(季調値)は3.3%となり、前月の3.4%から0.1%p改善した。就業者数は季調済前月比で▲13万人減少したものの、完全失業者も同▲2万人減少しており、失業率の低下につながった。
- 失業率の改善は若年層にも及ぶ。15～24歳の完全失業率(季調値)は、5.5%と前月から0.1%p改善した。若年層と全年齢層の失業率の差はバブル期並みにまで縮小しており、雇用環境改善のすそ野の広がりを示す。
- 雇用者数(季調値)は、5635万人(前月比▲8万人)と減少したものの、引き続き過去最高水準で推移している。中長期的に上昇傾向にあった非正規雇用者の比率も、横ばいにとどまっている。労働需給のひっ迫を背景に、正規化など労働条件の改善が進んでいる。

一般職業紹介状況(15年7月)の結果

- 15年7月の有効求人倍率(季調値)は、1.21倍と前月(1.19倍)から上昇した。同倍率が1.2倍を上回ったのは92年2月以来。
- 雇用の先行指標である新規求人数は、86.9万人(前月比+1.4%)と増加し、新規求人倍率は1.83倍と前月(1.78倍)から上昇した。
- ただし、正社員に限れば、有効求人倍率は0.75倍と1倍を大きく下回っており、雇用のミスマッチは依然として大きい。

基調判断と今後の流れ

- 雇用環境は改善している。就業者数は均せば増加基調にあるなか、非正規雇用者比率の上昇にも歯止めがかかりつつあり、雇用の質も着実に改善を続けている。
- 労働市場はほぼ完全雇用の状態にある。先行きは、有効求人倍率は一段の上昇が予想されるものの、雇用のミスマッチもあり、就業者数の増加テンポはこれまでよりは緩やかになっていくと予想する。